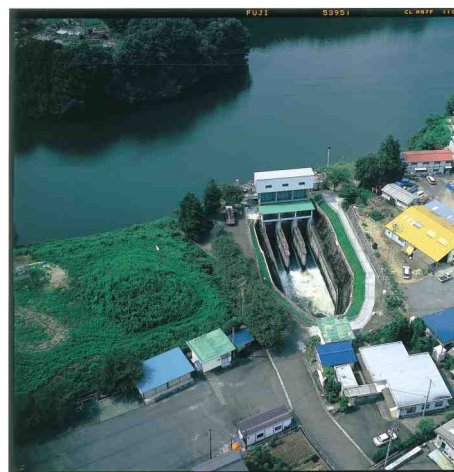


1 慰霊碑

建之年月日 昭和 36 年 7 月

碑文 (表) 慰霊碑

濱口 雄彦 書



兼山取水口



愛知用水の取り入れ口「兼山取水口」は、愛知用水の水源牧尾ダムから木曾川を 120 km 下った岐阜県加茂郡八百津町（木曾川河口から 78 km）にあり、関西電力(株)の兼山ダム直上流に位置し、3 門のゲートにより最大毎秒 30m³ を取水している。

碑文 (裏)

愛知用水事業殉職者名簿

愛知用水公団殉職者 (12 名)

今村輝治 服部寅治 林 一義 大津敏男 岡田信治 河村千代松 横田維俊 小沢恒幸
エドワード・エルビスレー 仙田 晃 藤村宏子 小林きよ

愛知用水工事施工業者側殉職者 (30 名)

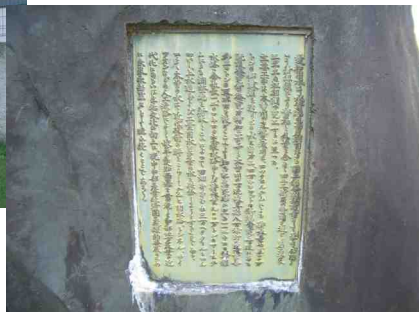
岩本一夫 萩本勝之 西本 博 西野 勇 岡田俊信 渡辺金作 上条常二 亀井忠夫
門脇信夫 可児清市 田中正明 生天目国愛 長江岩造 村上信夫 臼島清松 山本義男
藤田多三郎 福島利行 小島一作 青地辰造 浅井三郎 青山和夫 佐藤恒次 北島礼兒
宮坂 勇 島田昭也 平浜 豊 追尾盛義 鈴木運一郎 三村貞男

2 総裁記念碑

建之年月日 昭和 36 年 6 月 27 日



碑文 表



碑文 裏 (縦書銅板横 400 × 縦 600)

この木曾の水は百年の
夢をうつつに愛知用水
として濃尾の野をうるほす
ゆくてに幸多かれ
昭和三十六年六月二十七日
濱口雄彦書

愛知用水は水資源の高度利用による国土総合開発事業として生まれ、公団という新組織により実施し、外資を含めて 423 億円の費用を投じて、着工以来 3 年半の短期間で完工するに至った。

主要工事は、木曾川支流王滝川にロックヒルダムによる貯水量 7500 万トンの御嶽湖を造り、この水は出力 3.4 万キロワットの新規発電と下流にある既設発電所の発電力増加に寄与し、木曾川の下流岐阜県八百津町に取水量毎秒 30 トンの取水口を設け、これにより知多半島突端に至る 112 キロの幹線水路、全長 1200 キロの支線水路および貯水量 900 万トンのアースダムによる調整池を新設し、これによって田畑おおむね 3 万ヘクタールをかながいし、上水道および工業用水に多量の水を供給しようとするものである。

かくて木曾の水は、近代技術の粋をこらしてダムと開水路、トンネル、サイフォンなどの人工水路により、岐阜、愛知両県を貫通して中部地方農業の近代化にあるいは生活文化の向上に、就中中部産業経済圏の飛躍的發展のために未来永劫黙々として流れ続くことであろう。

3 愛知用水観音

建立 昭和 40 年 5 月

材料 陶器製品の立像、台座はコンクリート製

作者 星合信令 (陶芸家 尾張旭市柏井町)

碑文 (表) 台座に「愛知用水観音」

碑文 (裏) 像に「慈眼視衆生」

昭和45年5月建立

愛知用水公団理事長 塩見友之介

